

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 1丁目・2丁目)

事業所番号	0272300799		
法人名	有限会社なみおかケアサービス		
事業所名	グループホームえにしの家		
所在地	青森県青森市浪岡大字浪岡字佐野14-1		
自己評価作成日	平成22年10月8日	評価結果市町村受理日	平成23年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の考え方、個性を尊重した介護に努める。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.aokaigojyouho.jp/kaigosjp/infomationPublic.do?JCD=0272300799&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階		
訪問調査日	平成22年11月12日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・施設の母体である建設会社が地域への貢献を目的として設立したものであり、会社経営で受けた地域からの恩恵を還元するため地域密着型サービスとして取り組んでいきたいという施設長や職員の熱い思いが込められた事業所である。
・ケアに携わる職員の心身の健康の維持、資質向上にも力を入れており、入居者はもちろん、事業所で働く職員の就業環境の整備、職員を育てる取り組みも行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>①事業所独自の理念が作成されており、目に付きやすい所に掲示している。</p> <p>②管理者と職員は理念の意味を理解し、日々のサービス提供場面に反映させている。</p>	<p>「明るく、楽しく、その人らしく穏やかに生活できるよう、お手伝いをします」、</p> <p>「地域、町内行事等への参加をするとともに交流を図りながら、気軽に立ち寄ることのできる家を目指します」という理念を掲げ、入居者を大切に、地域と共に運営をすることに努めている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>①町内会や市のイベント等、地域の祭事等に参加し、地域との交流を図っている。</p> <p>②事業所の行事への地域の方たちの参加を働きかけている。</p>	<p>運営推進会議には町会長や民生委員の参加があり、町内会や地域のイベント等に積極的に参加している。また、事業所の納涼祭等の行事へ地域の方々の参加を呼び掛ける等、交流を図るための働きかけを行っている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>①見学や認知症に関する相談、ボランティアを受け入れている。</p> <p>②外部の方を受け入れる際は、利用者のプライバシーに十分配慮している。</p>	/	/
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>①運営推進会議では、報告や情報交換を行い、意見をサービスの向上に生かせるよう取り組んでいる。</p> <p>②自己評価、外部評価の結果について説明している。</p>	<p>2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、必ず市町村担当職員、地域包括支援センター職員が出席するよう働きかけている。自己評価や外部評価の結果についても報告されており、会議の内容は事業所内に掲示され、いつでも詳しい内容を見ることができるように工夫されている。</p>	
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>①運営推進会議には、市町村職員または地域包括支援センター職員が参加している。</p> <p>②自己評価及び外部評価票を提出し、報告を行っている。</p>	<p>運営推進会議には、毎回、市町村担当職員と地域包括支援センター職員が参加しており、事業所との情報の共有化等、連携が図られている。疑問などあれば、いつでも電話する等、日頃から行政との連携を図っている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	。代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	①身体拘束の内容について理解しており、身体拘束を行わないという姿勢で、日々のケアを行っている。 ②外出傾向にある方には、職員が付き添い支援している。	「身体拘束は絶対に行わない」という方針で、職員全員が利用者の安全確保と自由な暮らしを支援するため、日々、職員間で確認し合っている。利用者の外出傾向を察知した場合は落ち着くまで一緒に散歩等をして支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	①虐待は決して行わないという意識で、日々のケアを提供している。 ②虐待を未然に防ぐように注意を払い、防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	日常生活自立支援事業を利用している方がいるため、制度についての理解を深められるよう取り組んでいるが、十分理解できていないといえない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	①契約時には利用者や家族に、事業所の理念等ケアの方針や取り組み等について説明している。 ②退居の際には、契約に基づき、利用者や家族等に十分説明を行い同意を得ている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	①利用者が意見や苦情を出しやすいよう働きかけを行っており、利用者の言動から本人の不満や意見を察するよう取り組んでいる。 ②家族からの意見が得られやすいように、意見箱を設置している。	日頃のケアの中で利用者の言動や表情に注意し、不満や意見等を察知するようにしている。利用者はもちろん、家族の意見が聞き出せるよう意見箱を設置したり、訪問時は直接話し合う機会ができるよう雰囲気づくりを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	①職員の意見を聞きながら、勤務体制や異動等を検討している。 ②異動等を行う場合は、利用者に与える影響を最少にするための配慮を行っている。	ミーティングや勤務表作成時、職員の希望を取り入れている。幹部会議が毎月1回開催され、運営について職員からの意見も話し合われている。その他、要望等がある場合は、月1回のユニット会議等で職員の意見を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい等、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	①健康診断を年2回実施しており、職員の心身の健康を保つための体制を整えている。 ②就業規則があり守られている。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	①事業所独自の年間研修計画を作成している。 ②研修受講者には、勤務体制等に配慮している。 ③研修受講後は内容を日々のケアに活かせるよう情報の提供を行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者との交流、連携を通じて、日々のサービスの向上や職員育成につなげるために取り組んでいる。			
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	①サービス利用の相談があった時は、利用希望者や家族と面談し、直接話を聞く機会を設けている。 ②相談を受ける際には、利用希望者との信頼関係を築くことを意識しながら、対応を行っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	①サービス利用の相談があった時は、家族と面談し、直接話を聞く機会を設けている。まずは、家族の思いや希望、ニーズを把握するよう努めている。 ②相談を受ける際には、家族との信頼関係を築くことを意識しながら対応を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の利用希望者や家族のニーズに対し、その時点で何が必要かを見極めている。対応できることについては、柔軟に実行している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	①職員は利用者の喜怒哀楽を共感し、理解するよう努めている。 ②利用者と職員が共に作業等を行い、暮らしを共にする者同士の関係を築くよう努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を行い、家族の思いや気づきを共有し、共に本人を支える関係を築けるよう努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	必要に応じて、利用者がこれまで関わってきた人との面会や電話、手紙での連絡を継続できるよう支援している。	利用者が今まで築いてきた関係が断ち切られることがないよう、手紙や電話でのやり取りを継続する支援を行っている。また、自宅の近くへのドライブ等、馴染みの場所へ出掛ける等の支援も行われている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	①利用者の人間関係を把握している。 ②利用者が孤立しないよう配慮している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、必要に応じて家族の相談に応じており、これまで築いてきた利用者や家族との関係を継続するよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	①職員は、利用者の思いや希望、意向を把握するように努めている。 ②意向が把握できない場合は、必要に応じて、家族や関係者等から情報収集を行っている。	日頃のケアの中でよく観察し、ちょっとした表情の変化を逃さず、思いや意向を把握し、職員間で共有している。また、必要に応じて、家族や関係者等から情報収集を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者のプライバシーに配慮しながら、利用者の背景に関する情報の大切さを家族に伝えるとともに、利用者の生活歴等について家族から情報収集を行い、利用者の馴染みの暮らし方等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	①利用者の一日の暮らし方や、生活リズムを把握している。 ②利用者の有する力を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	①介護計画は、職員の意見や気づきを基に十分話し合い、作成している。 ②介護計画の実施期間を明示し、見直しを行う際にはモニタリングを行っている。	利用者はもちろん、家族やケアに携わっている職員が情報を共有し、利用者本位の個別具体的な計画を作成している。介護計画の実施期間を明示し、緊急時や状態の変化がある時はその都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	①一人ひとりについて、日々の暮らしの様子や身体状況等について具体的に記録している。 ②記録の内容を全職員が共有することができる仕組みを整えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の方やボランティア等へ協力を呼びかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	①これまでの受診状況を把握している。 ②かかりつけ医を受診介助し、結果を家族へ報告し共有している。	これまでの受診状況を詳細に把握しており、必要に応じて利用者が希望する医療機関の受診ができるよう支援されている。受診記録を別冊で作成しており、情報を細かく記録しているので職員の共有が出来ている。受診結果については、家族と情報が共有されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、利用者の身体状況の変化や気づきを看護職員に報告し、適切な受診が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	①入退院時は、病院関係者との情報交換や相談を行っている。 ②退院に向けた支援体制について、家族を含めた話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化や終末期の対応について、事業所としての方針を明確にしている。	重度化や終末期における対応指針を示しており、事業所として対応が困難なことや不安なこと等を職員間で話し合い、重度化した場合に備えて、利用者や家族等、医療機関等と早期からの話し合いを行い、意思統一を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	①急変時や緊急時の対応マニュアルが作成されている。 ②消防で初期対応の訓練を、1回/年受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定した火災訓練を、2回/年行っている。	利用者、職員と一緒に日中・夜間を想定して避難訓練を年2回実施しており、有事の際は町内会や消防署等の協力体制が受けられるよう働きかけている。また、災害発生時に備えて、食糧等が確保されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	①利用者の意向を配慮した上で、常識的な呼びかけや声がけを行っている。 ②利用者のプライバシーに配慮して業務を行っている。 ③利用者への声がけや対応について、改善に向けた取り組みを行っている。	利用者の言動を否定せず、利用者の意向を確認し、基本的には名前は「さん付け」で呼んでいる。利用者一人ひとりの生活リズムに合わせたケアが継続できるよう、個人情報やプライバシーへの配慮を常に心がけて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が言葉で十分に意思表示できない場合でも、表情や反応を読み取ることで、利用者を選んでもらう場面づくりを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り、利用者一人ひとりが持っているペースや、望んでいるペースに合わせて支援するように努めているが、職員の都合で支援が困難なこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	①更衣時、一緒に選ぶよう心がけているが、自己決定ができない方は、職員が選び支援している。 ②衣類や整容の乱れにはさりげなくサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	①食材の下準備、下膳、テーブル拭き等を一緒に行っている。 ②食事前にメニューを説明し、食事を楽しめるように心がけている。 ③食べこぼし等へのサポートを行っている。	利用者の好き嫌いを把握し、献立にも取り入れている。下ごしらえや後片付け等も可能な限り、職員と利用者が共同で行い、会話を楽しみながら思い思いの食事時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	①一日の食事、水分摂取量を把握しており、不足している時は好みの物で確保できるよう調整している。 ②嚥下状態に合わせて食事形態を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、口腔内の洗浄や義歯の手入れを、声がけしたり、一緒に行ったりしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	①一人ひとりの排泄パターンを記録、把握している。 ②パターンに応じて声がけ、誘導を行い、できる限りトイレで排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握しており、夜間だけおむつにする等の支援を行っている。トイレが個室の中にあるため、トイレまでの誘導の際にも利用者の羞恥心やプライバシーに配慮した支援がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日の食事や排泄、活動状況等を見直し、自然排便を促すよう、水分摂取量や歩行を促す等取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	①入浴を拒否する利用者に対しては、タイミングを合わせて、声がけや対応等の工夫を行っている。 ②入浴時間や湯温、入浴方法には十分配慮している。	入浴前には体温や脈拍などを測り身体に負担のないことを確認している。週2回の入浴を実施しているが、利用者の希望に応じ、シャワー浴をする等の対応がされている。入浴を拒否される利用者については、声掛けを工夫したり、足浴や清拭をする場合もある。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	①体調に応じて、休息を取り入れている。 ②寝付けない利用者に対して、付き添う等適切な対応を行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	①薬の内容、副作用について、いつでも調べられるようにしている。 ②薬の処方や用量が変更した時は、全職員に周知している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	①自室の掃除や、テーブル拭き等役割が持てるよう働きかけている。 ②一人ひとりの楽しみ(新聞を読む、歌をうたう等)気分転換を図れるように支援をしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	①利用者の身体状況に合わせて、移動時間等を配慮している。 ②季節を楽しめるような外出を計画している。	利用者の買い物や趣味、気分転換につながるよう、利用者の希望や習慣を取り入れた外出支援を行っている。お盆の墓参り等対応できない時は家族の協力を得ている。また、外出の際は利用者の身体状況、その日の状態に合わせた支援を行うよう心掛けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理を行える利用者は、買い物や外出時、所持していただき、遣えるように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話をかけたり、手紙を出す場合には支援をしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度等）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	①テレビや音楽等の音量は適切である。 ②ソファを置いたり、庭に咲いている季節の花を飾る等、家庭的な雰囲気を保てるよう配慮している。	冬は全室床暖房、夏は各部屋にエアコンが設置され、適度な室温が保たれている。物音もなく静かであり、居心地良い空間が保たれている。ホールや玄関には木の実の枝を飾る等、季節感を取り入れ、家庭的な空間になる工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	①ソファや床に座り、一人であるいは数人で過ごせる場所を確保している。 ②玄関ポーチに椅子、テーブルを置き、外気浴をしながらお茶を飲む等ができる場所を設けている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や仏壇の持ちこみ、家族の写真を飾る等、一人ひとりに合った居室づくりを工夫している。	入居前から愛用しているものを自由に持ち込んでいる。持ち込みの少ない人には、本人と職員と一緒に飾る物を買うに行く等、殺風景にならないよう一人ひとり馴染みのある居心地良い居室となるよう工夫がされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	①廊下、居室トイレ、浴室に手すりを設置しており、安全に配慮している。 ②居室、ホールの席の間違いを防ぐ為に、ドアノブにリボンや花をつけ、椅子にクッションを置く等工夫を行っている。			